

技術と社会部門 2010 年度部門功績賞受賞者挨拶

部門功績賞を受賞して

勝田正文（早稲田大学）

今回の受賞は思いがけないもので、技術と社会部門への貢献が最も少ない受賞者として今後語り続けられるのではないかと、内心心配しているところです。また、私の専門は熱工学・伝熱工学・環境エネルギー関連であり、専門からは最も遠い部門で贈賞していただきました。このことについては、技術と社会部門の部門横断的特徴とその開かれた自由度の高さを象徴するものであり、大変な栄誉であるとお礼申し上げるしだいです。

私が部門長を拝命いたしましたのは、部門発足3年目、第79期（2001年度）で、初代、西尾先生、二代小澤先生といった錚錚たる部門長の後を引き受けたこととなります。部門としても黎明期にあり、将来への期待と同時に、特に運営面の資金と人材の面で不安を抱えておりました。また、よく言われますように「石の上にも3年」ですから、確固たる部門の活動方針と持続的発展のための指針を固めなければならない時機でした。

有能な副部門長、幹事のご支援、ご尽力もあり、この部門の特徴でもあるイブニングセミナーや国際会議 ICBTT などを軌道に乗せることが出来たように思います。この部門は皆さんから言われるように非常に家族的な雰囲気、オープンな議論が出来る雰囲気がはじめからあったように記憶しております。また、所属される方も多岐にわたり、深い専門性と全体を俯瞰し、戦略を重視される会員が多く、大いに勉強いたしました。

部門長退任後は、これを足掛かりに学会の理事を4期歴任し、庶務、企画、広報を担当させていただき、ほとんど何もできませんでしたが微力を尽くして恩返しをさせていただきました。特に、部門発案の機械遺産は、今や「機械の日」にはなくてはならない重要なイベントとして成長しております。

学会の役割は、専門家が一堂に会して情報発信を行い、議論を戦わす場を提供するばかりでなく、社会への働き掛けを通じて産業界や官界との連携を図り、くわえてグローバルな活動を通して日本の学術地位を高めることでありましょう。若い有為な研究者を刺激しより研究の深化を図り、将来を展望することも忘れてはなりません。この点を取り持つのが本部門なのではないかと考えます。

さて、この10年間、特に官との連携で研究開発さらには人材育成分野の競争的資金を得ることが出来、本日の講演会での発表（11月19日沖縄、琉球大学）となりました。国際環境リーダーの育成の中で、知識や知恵の深化すなわち高度な専門性ととともに、文を融合して全体を俯瞰する力の育成、T型人間を育てるにはと言う命題を与えられております。

知財の人材育成の時もつくづく感じたのですが、やはり知識や知恵を活用する段階での

戦略や規制、安心・安全さらにはコンプライアンス等、学ぶべきものは沢山あり、決して
おろそかにできない事象です。我々も含め他の部門においては専門性を高め、研究を深化
させるところに目標があるわけで、これを守備範囲としておりません。

したがって、特に大震災後のパラダイム変化へ機械学会も大いに貢献できる状況にある
のですが、その中核となるのがこの部門ではないかと期待しております。このような状況
下、やはり、次の10年を見通した活動のロードマップが必要ではないでしょうか？

最後に今一度、今回の受賞に対してお礼を申し上げるとともに、当部門の今後のご隆盛
をお祈りして、受賞の言葉といたします。ありがとうございました。



日本機械学会

技術と社会部門ニュースレターNo.26

(C)著作権:2011 社団法人 日本機械学会 技術と社会部門